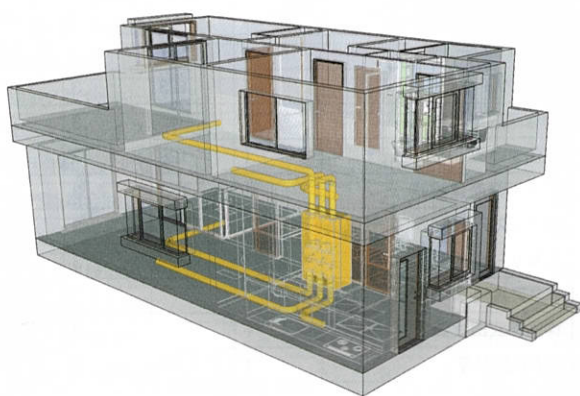


戸建向け全館空調の実用性検証

札幌型環境・エネルギー技術開発

システムの概要



空調ユニットで温度調整した空気を床下・階間のチャネルを経由して室内に分配する

■室内の温度差解消
三者は(公財)北海道科学技術総合振興センター(ノーステック財団、札幌市)が募集した、環境・エネルギー関連産業の活性化や市民生活の向上を目的とした「札幌型環境・エネルギー技術開発支援事業」に「汎用エアコンを熱源とした全館空調システム」の開発を提案。10月3日、採択された。

同システムは高効率ヒートポンプエアコンによる省エネ性や室内の温度分布の均一性、地元ビルダー・設備業者が施工できるなどがメリット。汎用エアコンを利用するため、インシャルコストは一般的な全館空調システムに比べて安価に抑え

■道内向け仕様確立
室蘭市内にある、住まいのウチイケの延床面積140・66㎡、U A値0・

同システムの導入には東北以南に分布する4地域でも外皮平均熱貫流率(U A値)0・45 W/㎡K以下の住宅性能が必要とされる。寒冷地の道内に適応するための住宅性能の検証や調整が普及にとって重要となる。

暖房効果と併せ持つ。セントラル暖房では冷たさを感じるケースも多い1階床面も暖め、快適性を高める。

同システムは汎用エアコンと複数台の送風用省エネ型D Cファンで構成された空調ユニットを屋内に設置。空調ユニットで第一種または第三種換気システムを取り入れた外気の温度を調整し、床下のチャネルを経由してタクトで各部屋・エリアに分配する。

■放射の暖房効果も
同システムは汎用エアコンと複数台の送風用省エネ型D Cファンで構成された空調ユニットを屋内に設置。空調ユニットで第一種または第三種換気システムを取り入れた外気の温度を調整し、床下のチャネルを経由してタクトで各部屋・エリアに分配する。



屋根勾配は3分の2

ミサワホーム(東京)は、1、2地域のZ E H(ネット・ゼロ・エネルギー・ハウス)基準を標準仕様にしたフリープランの本質系工業化住宅「Family link Z E R O(ファミリンク・ゼロ)」を10月8日に全国で発売した。

35歳前後の第1次住宅取得層を主要ターゲットに全道で初年度10棟の受注を目指す。

アルゴンガス入りトリプルガラス樹脂サッシを採用、屋根勾配は同社で一般的な2分の1より角度を付けた3分の2として落着きやすとした。太陽光発電システムは最大9・1kWの容量まで搭載できる。外皮平均熱貫流率(U A値)は0・39 W/㎡Kで、1、2地域のZ E H基準(0・40 W/㎡K)をクリアしている。樹脂サッシのアルゴンガスをク

札幌市厚別区にモデルハウスを建設中で来年1

国内生産量(丸太換算、以下同じ)は2005万8000㎥で前年比14・1%増加。輸入量は5024万2000㎥で同19・1%減少(3・7%)減した。

国内の木材自給率は33・3%となり、2011(平成23)年以来5年連続で上昇している。

基本コンセプトは道内限定商品「Family link(ファミリンク)」と同様、「子育てへの配慮」。「乳児期」「幼児期」「児童期」「青少年期」の4つの成長過程に合わせた「学びの空間」をデザインした独自の設計プランや、チャイルドゲートを設置したスライド式収納家具、チャイルドロック月家具などを採用している。

リフトンガスに変更した場合、U A値は0・37 W/㎡Kとなる。「Z E H基準をクリアすると間取りや開口の大きさが制約されがち(ミサワホーム北海道)だが、同商品は建物南面に設けた幅約3・6m、高さ約3mの大開口と吹き抜け、勾配天井を連続させて家全体に光が広がるよう工夫している。

林野庁は9月27日、2015(平成27)年の木材需給に関するデータを集約・整理した「木材需給表」を取りまとめ、公表した。

国内生産量(丸太換算、以下同じ)は2005万8000㎥で前年比14・1%増加。輸入量は5024万2000㎥で同19・1%減少(3・7%)減した。

国内の木材自給率は33・3%となり、2011(平成23)年以来5年連続で上昇している。

基本コンセプトは道内限定商品「Family link(ファミリンク)」と同様、「子育てへの配慮」。「乳児期」「幼児期」「児童期」「青少年期」の4つの成長過程に合わせた「学びの空間」をデザインした独自の設計プランや、チャイルドゲートを設置したスライド式収納家具、チャイルドロック月家具などを採用している。

リフトンガスに変更した場合、U A値は0・37 W/㎡Kとなる。「Z E H基準をクリアすると間取りや開口の大きさが制約されがち(ミサワホーム北海道)だが、同商品は建物南面に設けた幅約3・6m、高さ約3mの大開口と吹き抜け、勾配天井を連続させて家全体に光が広がるよう工夫している。

匠の技を仕組みへと進化させ住まいの明日をつくる

真の100年住宅を目指しプレキャスト部材で3つのストラクチャーを実現へ

三世代が引き継げる真の100年住宅の在り方とは――。

コンクリートの可能性を信じる **AIZAWA** は、

100年の高耐久設計されたプレキャストコンクリート部材で構成されるスケルトン住宅こそ、有力な解答のひとつではないかと考えます。

現行のΣBaseは、構想のスタートに過ぎません。基礎(Base)、柱(Column)、梁(Beam)。

スケルトンを構想するこれらの3つの規格化されたコンクリート構造部材を

建設予定地でキャストイングし、少人数のスタッフがその場で連結して組み上げる。

高機能/高耐久のpMpコンクリートを活用した、

高度に工業化されたストラクチャーを提供する仕組みづくりを、

住まいのプロとしてエンドユーザーと向き合うハウスメーカー様とともに進めてまいります。

人手不足の時代を背景に、住宅産業がさらなる変貌を遂げる、

その礎になりたいと **AIZAWA** は考えています。

會澤高圧コンクリート株式会社

www.aizawa-group.co.jp



AIZAWA

Concrete basics for life.